

関子浩二先生 学歴・職歴**学歴**

- 1983年4月－1987年3月 筑波大学 体育専門学群 卒業
1987年4月－1989年3月 筑波大学 体育学研究科 コーチ学専攻 修了
1989年4月－1990年3月 筑波大学 体育専門学群研究生 その他
1990年4月－1995年3月 筑波大学 体育科学研究科 体育科学専攻 修了

職歴

- 1992年4月－1995年3月 埼玉大学 教養部 非常勤講師
1995年4月－1995年12月 筑波大学 体育センター 準研究員
1996年4月－2000年11月 鹿屋体育大学 助手
2000年12月－2004年3月 鹿屋体育大学 助教授
2002年11月－2003年8月 西オーストラリア大学 研究員
2004年4月－2007年9月 国立大学法人鹿屋体育大学 准教授
2007年10月－2009年11月 国立大学法人鹿屋体育大学 教授
2009年12月－2012年3月 国立大学法人筑波大学 大学院人間総合科学研究科 准教授
2012年4月－(現在) 国立大学法人筑波大学 大学院人間総合科学研究科 教授

関子浩二先生 研究業績

—著書など—

2015年

- 1) トレーニングとコンディショニング
関子 浩二 (分担執筆)
運動生理学20講 (第3版)
朝倉書店 /pp.170-179, 2015

2013年

- 2) 日本のスポーツ界から体罰 (暴力) を根絶するための方略
関子 浩二 (一部執筆)
私たちは未来から「スポーツ」を託されている 新しい時代にふさわしいコーチング
学研パブリッシング /pp.120-121 (IV章), 2013
- 3) トレーニング論II/トレーニング理論と方法論
関子 浩二 (分担執筆)
公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目III
日本体育協会 /pp.104-117, 2013

2009年

- 4) 筋力トレーニングの理論と実践
関子 浩二 (訳) 高松 薫 監訳
大修館書店 /2009
- 5) スプリントトレーニングのマネジメント
関子 浩二 (分担執筆)
スプリントトレーニング 一速く走る・泳ぐ・滑るを科学する—
朝倉書店 /pp.1-9, 2009

2006年

- 6) 長期トレーニングプランとタレント発掘
関子 浩二 (分担翻訳)
競技力向上のトレーニング戦略
大修館書店 /pp.196-223 (9章), 2006

2005年

- 7) プライオメトリックトレーニングとスピードトレーニング
関子 浩二 (分担執筆)
NSCA パーソナルトレーナーのための基礎知識
森永製菓健康事業部 /pp.443-480 (17章), 2005

2004年

- 8) 体力測定 (1) —競技スポーツの場合—
関子 浩二 (分担執筆)

スポーツ医学研究ハンドブック 応用科目
文光堂 /pp.196-223 (6章), 2004

2003年

- 9) トレーニングで進化する私たちの体/自分の体を自分でマネジメントしよう
関子 浩二
最新 体育・スポーツ理論
大修館書店 /pp.94-103 (4-5章), 2003

1995年

- 10) バリスティックな伸張-短縮サイクル運動の遂行能力を決定する要因
関子 浩二
平成6年度 筑波大学大学院体育科学研究科体育科学専攻 博士学位論文
1995

関子浩二先生 研究業績

—論文など—

※論文種別や査読の有無を問わず記載しています。

2017年

- 1) プライオメトリックトレーニングを効果的に実施するためには？
—ドロップジャンプにおける時系列的な運動連関に着目して—
吉田 拓矢；関子 浩二
陸上競技研究/108 (1)/pp.2-13, 2017
- 2) 大学体育におけるフィットネストレーニング授業の実践的検討
～学生の主体的な取り組みによる授業の実践課程～
片岡 悠妃；関子 浩二；遠藤 俊典；安井 年文；藤林 献明
大学体育学/34/pp.35-47, 2017
- 3) リバウンドジャンプテストを用いた跳躍選手の専門的な下肢筋力・パワーに関する評価。
関子 あまね；苅山 靖；関子 浩二
体力科学/66 (1)/pp.79-86, 2017

2016年

- 4) ドロップジャンプにおけるパフォーマンス獲得までに至るまでの時系列的な運動連関。
吉田 拓矢；中 宗一郎；苅山 靖；林 陵平；高橋 和孝；関子 あまね；関子 浩二
体力科学/65 (5)/pp.479-489, 2016
- 5) ボールの大きさと重さが幼児の投距離および投動作に及ぼす影響。
林 陵平；松尾 真以子；苅山 靖；坂口 将太；関子 浩二
陸上競技研究/106/pp.28-38, 2016
- 6) Differences in take-off leg kinetics between horizontal and vertical single-leg rebound jumps.
Kariyama Yasushi, Hobara Hiroaki, Zushi Koji
Sports Biomechanics (in press)
- 7) クリーンエクササイズのカッチ動作をトレーニング手段に用いる場合の負荷特性：主要局面であるプル局面との比較を通して。
林 陵平；苅山 靖；吉田 拓矢；関子 浩二
体育学研究/61 (2)/pp.575-587, 2016
- 8) Effects of stretch-shortening cycle during trunk-twist exercise using different loads.
Takahashi Kazutaka, Yoshida Takuya, Kariyama Yasushi, Hayashi Ryohei, Zushi Koji
Proceedings of the 34th Congress of the International Society of Biomechanics in Sports/ USB data, 2016
- 9) プレセット中の運動野短間隔皮質内抑制がドロップジャンプのパフォーマンスに及ぼす影響。
吉田 拓矢；丸山 敦夫；苅山 靖；林 陵平；関子 浩二
体力科学/65 (4)/pp.401-413, 2016
- 10) Development of maximal speed sprinting performance with changes in vertical, leg and joint stiffness.
Nagahara Ryu, Zushi Koji
Journal of Sports Medicine and Physical Fitness (in press)
- 11) 下肢Stiffness特性がバウンディングの踏切動作に及ぼす影響。
苅山 靖；関子 浩二
体育学研究/61 (2)/pp.435-448, 2016
- 12) Relationships between lower-limb joint kinetic parameters of sprint running and rebound jump during the support

phases.

Kariyama Yasushi, Zushi Koji

Journal of Physical Fitness and Sports Medicine/5 (2)/pp.187-193, 2016

- 13) “ある初心者コーチ”が経験したコーチング開始当初数ヶ月間の学びに関する事例
—大学跳躍チームのアシスタントコーチ経験を省察することからみえる初心者コーチの学び—
林 陵平；金井 瞳；関子 浩二
コーチング学研究/29 (2)/pp.229-238, 2016
- 14) クリーンエクササイズにおける挙上重量と下肢3関節の力発揮特性の関係.
林 陵平；荻山 靖；関子 浩二
体力科学/65 (2)/pp.243-254, 2016
- 15) コーチングモデルと体育系大学で行うべき一般コーチング学の内容.
関子 浩二
コーチング学研究/29 (増刊号)/pp.21-33, 2016
- 【その他】**
- 16) パフォーマンスの構造を理解しトレーニングサイクルを循環させる.
—特集：パフォーマンスを評価する—
関子 浩二
コーチング・クリニック/30 (6)/pp.4-7, 2016
- 17) 資質を見極めたうえでの指導力.
—特集：PART 4 あなたの「学び」を全力で応援します—
関子 浩二
Sports Japan/3・4月号 (特別号)/pp.40-43, 2016
- 18) 新人消防官の消火活動パフォーマンスに影響を与える効果的なリーダーシップ行動（スポーツコーチングの理論を応用して）（平成27年度委託研修生研究論文）.
杉本 仁美；関子 浩二
消防技術安全所報/53/pp.172-176, 2016

2015年

- 19) 体罰・暴力根絶のためのコーチング学からのアプローチ法.
関子 浩二
体育学研究/60/pp.R10_1-R10_14, 2015
- 20) The effect of increasing jump steps on the take-off leg in bounding.
Kariyama Yasushi, Yoshida Takuya, Hayashi Ryohei, Takahashi Kazutaka, Zushi Amane, Zushi Koji
Proceedings of the 33rd Congress of the International Society of Biomechanics in Sports/pp.694-697, 2015
- 21) Development of multistep drop jump test by using different drop heights.
Yoshida Takuya, Kariyama Yasushi, Hayashi Ryohei, Takahashi Kazutaka, Zushi Amane, Zushi Koji
Proceedings of the 33rd Congress of the International Society of Biomechanics in Sports/pp.238-241, 2015
- 22) Comparison of pull and catch phases during clean exercise.
Hayashi Ryohei, Kariyama Yasushi, Yoshida Takuya, Takahashi Kazutaka, Zushi Amane, Zushi Koji
Proceedings of the 33rd Congress of the International Society of Biomechanics in Sports/pp.346-349, 2015
- 23) The characteristics of hitting motion using bats having different length and mass but equal moment of inertia.
Takahashi Kazutaka, Yamada Kensuke, Kariyama Yasushi, Yoshida Takuya, Hayashi Ryohei, Zushi Amane, Zushi Koji
Proceedings of the 33rd Congress of the International Society of Biomechanics in Sports/pp.702-705, 2015

- 24) Development of a new assessment method for the rebound jump test.
Zushi Amane, Kariyama Yasushi, Yoshida Takuya, Hayashi Ryohei, Takahashi Kazutaka, Zushi Koji
Proceedings of the 33rd Congress of the International Society of Biomechanics in Sports/pp.277-280, 2015
- 25) 4歳から5歳に至る幼児のリバウンドジャンプ能力および疾走能力に関する縦断的变化。
坂口 将太；藤林 献明；吉田 拓矢；林 陵平；図子 浩二
体育学研究/60 (1)/pp.1-12, 2015
- 26) バウンディングにおける Stiffness 特性へ影響する踏切脚の力およびパワー発揮：リバウンドジャンプとの比較から。
菊山 靖；図子 浩二
体育学研究/60 (1)/pp.137-150, 2015
- 27) リバウンドロングジャンプテストを用いた水平跳躍能力の評価と技術トレーニングへの応用。
藤林 献明；図子 浩二
陸上競技研究/100 (1)/pp.4-14, 2015
- 28) 競技力と人間力から評価した高卒と大卒テニス競技者の特性。
北崎 悦子；菊山 靖；図子 浩二
テニスの科学/23/pp.52-53, 2015
- 29) ばね能力を改善するための冬季屋内トレーニング指導方法 —中学生を対象として—。
岩竹 淳；図子 浩二
コーチング学研究/28 (2) /pp.209-212, 2015

【その他】

- 30) リバウンドジャンプを用いて評価した跳躍選手の下肢に関する筋力・パワー発揮プロフィール。
(筑波大学体育専門学群 推薦論文)
図子 あまね
保健体育 専攻学生卒業論文・修士論文集/日本教育大学協会/pp.93, 2015

2014年

- 31) サッカーのインステップキックにおけるボール速度に影響する支持脚の筋力およびジャンプ能力：助走速度の相違に着目して。
菊山 靖；渡来 真人；図子 浩二
体育学研究/59 (2)/pp.755-770, 2014
- 32) 跳躍方向の異なるバウンディングにおける踏切脚の力発揮特性。
菊山 靖；図子 浩二
体育学研究/59 (2)/pp.397-411, 2014
- 33) Traditional and ankle-specific vertical jumps as strength-power indicators for maximal sprint acceleration.
Nagahara Ryu, Naito Hikari, Miyashiro Kenji, Morin Jean-Benoît, Zushi Koji
The Journal of Sports Medicine and Physical Fitness/54 (6)/pp.691-699, 2014
- 34) Association of acceleration with spatiotemporal variables in maximal sprinting.
Nagahara Ryu, Naito Hikari, Morin Jean-Benoît, Zushi Koji
International Journal of Sports Medicine/35 (9)/pp.755-761, 2014
- 35) Kinematics of transition during human accelerated sprinting.
Nagahara Ryu, Matsubayashi Takeo, Matsuo Akifumi, Zushi Koji
Biology Open/3 (8)/pp.689-699, 2014
- 36) リバウンドロングジャンプ指数の優劣を決定する踏切局面の技術的要因。
藤林 献明；坂口 将太；菊山 靖；図子 浩二

体育学研究/59 (1)/pp.175-188, 2014

- 37) 2歳から6歳までの幼児におけるリバウンドジャンプ遂行能力と疾走能力との関係.
坂口 将太; 藤林 献明; 苅山 靖; 関子 浩二
発育発達研究/62/pp.24-33, 2014
- 38) 全力疾走の加速局面における疾走能力と身体部分長との間の関係.
永原 隆; 関子 浩二
スプリント研究/23/pp.5-15, 2014
- 39) リバウンドロングジャンプテストの遂行能力からみた水平片脚跳躍において高い接地速度に対応するための踏切動作. (日本陸上競技学会 学会賞)
藤林 献明; 苅山 靖; 木野村 嘉則; 関子 浩二
陸上競技学会誌/12 (1)/pp.33-44, 2014
- 40) コーチングモデルと体育系大学で行うべき一般コーチング学の内容.
関子 浩二
コーチング学研究/27 (2)/pp.149-161, 2014
- 41) 女子テニス選手の育成過程に関するコーチング学的研究
—高卒後即座に競技活動に至るタイプと大学生活を経て競技活動に至るタイプを比較して—.
北崎 悦子; 関子 浩二
テニスの科学/22/pp.126-127, 2014
- 42) 腕の振り込み動作の改善を目的としたリバウンドジャンプの指導法.
小森 大輔; 関子 浩二; 小森 智美
スポーツパフォーマンス研究/6/pp.11-23, 2014
- 43) ジャンプエクササイズを用いたプライオメトリックトレーニングにおける手段および方法の構築
—バイオメカニクス知見をエビデンスとして用いることの重要性—.
苅山 靖; 関子 浩二
バイオメカニクス研究/18 (3)/pp.176-188, 2014

【その他】

- 44) 好調・走高跳陣に見る思考力.
関子 浩二
陸上競技マガジン/10/pp.124-127, 2014
- 45) 幼児を対象としたリバウンドジャンプ能力を向上させるトレーニングの効果.
(筑波大学体育専門学群 推薦論文) (優秀卒業研究)
金井 瞳
保健体育 専攻学生卒業論文・修士論文集/日本教育大学協会/pp.86, 2014

2013年

- 46) 2歳から6歳までの幼児におけるリバウンドジャンプ遂行能力の発達過程.
坂口 将太; 関子 浩二
体育学研究58 (2)/pp.599-615, 2013
- 47) 体幹・股関節強化トレーニング機器 (マルチパワーC) の開発.
関子 浩二
平成22年度~平成24年度マルチサポート事業 研究開発プロジェクト班の活動記録/pp.117-121, 2013
- 48) 陸上競技跳躍種目のパフォーマンス向上に対するバウンディングとリバウンドジャンプの用い方に関するトレーニング学的研究.
苅山 靖; 関子 浩二

トレーニング科学/25 (1)/pp.41-51, 2013

- 49) 女子短距離選手を対象としたステップ変数による加速能力の評価.
永原 隆；図子 浩二
陸上競技研究/94 (3)/pp.38-46, 2013
- 50) Determination of foot strike and toe-off event timing during maximal sprint using kinematic data.
Nagahara Ryu, Zushi Koji
International Journal of Sport and Health Science/11/pp.96-100, 2013
- 51) 片脚および両脚リバウンドジャンプにおける3次元的な力発揮特性の相違.
荻山 靖；藤井 宏明；森 健一；図子 浩二
いばらぎ健康・スポーツ科学/30/pp.39-43, 2013
- 52) The differences between horizontal and vertical direction during a single-leg rebound jump.
Kariyama Yasush, Zushi Koji
Proceedings of the XXXI-th Congress of the International Society of Biomechanics in Sports, Taipei, Taiwan, 2013
- 53) Characteristics of the long jump take-off as the novice increases the number of steps in the approach run.
Kinomura Yoshinori, Fujibayashi Nobuaki, Zushi Koji
Procedia Engineering/pp.313-318, 2013
- 54) The effect of in depth outdoor experience on attitudes toward nature.
Okada Masahiro, Okamura Taito, Zushi Koji
Education and Leadership/pp.192-209, 2013
- 55) 片脚および両脚リバウンドジャンプにおける3次元的な力発揮特性の相違.
荻山 靖；藤井 宏明；森 健一；図子 浩二
体育学研究/58 (1)/pp.91-109, 2013
- 56) 水平片脚跳躍を用いたバリスティックな伸張-短縮サイクル運動の遂行能力と各種跳躍パフォーマンスとの関係.
藤林 献明；荻山 靖；木野村 嘉則；図子 浩二
体育学研究/58 (1)/pp.61-76, 2013
- 57) 女子短距離走選手を対象とした足底屈パワーテストと疾走能力の関係.
永原 隆；宮代 賢治；図子 浩二
スポーツパフォーマンス研究/5/pp.279-294, 2013
- 58) プライオメトリックトレーニング手段としての各種リバウンドジャンプの使い方
一両脚型と片脚型および鉛直型と水平型の相違に着目して一.
荻山 靖；図子 浩二
陸上競技研究/92 (1)/pp.2-14, 2013
- 59) 日本男子三段跳における競技力の再考と世界と戦うための今日的課題.
松下 翔一；図子 浩二
陸上競技学会誌/11/pp.76-81, 2013
- 60) 筋力・パワー集中負荷方式およびプライオメトリクス強調方式のトレーナビリティに関するトレーニング学的研究
～跳躍競技者のプレシーズンにおけるトレーニング経過を手がかりにして～.
図子 浩二
陸上競技学会誌/11/pp.39-49, 2013

【その他】

- 61) 数種類の台高を利用した多段階式ドロップジャンプテスト法の開発. (筑波大学体育学専攻 推薦論文)
松島 一司
保健体育 専攻学生卒業論文・修士論文集/日本教育大学協会/2013

2012年

- 62) 水平および鉛直方向への片脚リバウンドジャンプにおける力発揮特性の相違.
荻山 靖; 森 健一; 尾縣 貢; 関子 浩二
いばらぎ健康・スポーツ科学/29/43-46, 2012
- 63) The comparison to the characteristics of three-dimensional joint kinetics between single leg and double leg rebound jump.
Kariyama Yasushi, Mori Kenichi, Fujii Hiroaki, Zushi Koji
Proceedings of the XXX-th Congress of the International Society of Biomechanics in Sports, Melbourne, Australia, 2012
- 64) 片脚踏切を用いたリバウンド型ジャンプの動作および力発揮特性: 両脚踏切を用いたリバウンド型ジャンプと比較して.
荻山 靖; 遠藤 俊典; 藤井 宏明; 森 健一; 尾縣 貢; 関子 浩二
体育学研究/57 (1)/pp.143-158, 2012
- 65) 走幅跳における助走歩数を増やして踏切するための踏切動作: 短助走跳躍から長助走跳躍に至る踏切動作等の変化率に着目して.
木野村 嘉則; 村木 征人; 関子 浩二
体育学研究/57 (1)/pp.71-82, 2012
- 66) 流速の異なるクロール動作中の腹腔内圧の変化様相.
小川 まどか; 島 典広; 太田 洋一; 川端 将司; 関子 浩二
トレーニング科学/24 (1)/pp.69-75, 2012
- 67) 体育方法学研究およびコーチング学研究が目指す研究のすがた.
関子 浩二
コーチング学研究/25 (2)/pp.203-209, 2012
- 68) リバウンドジャンプ初心者のための指導法 —姿勢づくりに着目して—.
小森 大輔; 関子 浩二; 小西 麻耶子; 小森 智美
スポーツパフォーマンス研究/4/pp.161-170, 2012
- 69) プライオメトリクス.
関子 浩二
体育の科学/62 (1)/pp.44-50, 2012

2011年

- 70) 思春期後期にある生徒の疾走能力に対するプライオメトリックトレーニングの有効性.
岩竹 淳; 関子 浩二
陸上競技研究/85 (2)/pp.2-11, 2011
- 71) 農村的地域に在住する外出頻度の低い高齢者の身体的特性、生活習慣および社会的特性.
東恩名 玲代; 涌井 佐和子; 永山 寛; 浜岡 隆文; 斎藤 和人; 吉田 剛一郎; 前田 明; 関子 浩二;
井上 尚武; 和田 智仁; 隅野 美砂輝; 吉武 裕
生涯スポーツ学研究/8 (1)/pp.13-22, 2011
- 72) ジュニア選手の走幅跳における助走歩数の増加と跳躍距離の推移の関係.
木野村 嘉則; 天野 秀哉; 田淵 舞; 関子 浩二
人類動態学会会報, 2011
- 73) ハンドボールレフェリーにおける試合中の行動規範に関する研究.
田淵 舞; 木野村 嘉則; 藤林 献明; 會田 宏; 関子 浩二
人類動態学会会報, 2011
- 74) 走幅跳における助走歩数と跳躍距離の増加パターンを決定する要因.

木野村 嘉則；村木 征人；図子 浩二

第21回日本コーチング学会大会特別論文集, 2011

- 75) ボックスジャンプを用いた水平方向へのStretch-shortening cycle運動の遂行能力の評価.

藤林 献明；木野村 嘉則；図子 浩二

第21回日本コーチング学会大会特別論文集, 2011

2010年

- 76) 体幹部の鉛直軸回りの回転運動から見た野球の投球とバッティングおよびゴルフのドライバーショットの類似性.

石井 泰光；山本 正嘉；図子 浩二

体育学研究/55 (1)/pp.63-79, 2010

- 77) スポーツ選手や指導者に役立つ実践の学としてのコーチング学の一つの方向性.

図子 浩二

スポーツ方法学研究/23 (2)/pp.99-104, 2010

- 78) 大学サッカー選手におけるインサイドキック時の注視点に関する研究.

井上 尚武；津崎 浩平；青木 竜；図子 浩二；塩川 勝行；三浦 健

鹿屋体育大学学術研究紀要/40/pp.1-7, 2010

- 79) 長距離ランナーにおけるランニングと連続跳躍による経済性の関係.

武田 誠司；石井 泰光；山本 正嘉；図子 浩二

体力科学/59 (1)/pp.107-118, 2010

- 80) Determinants of the ability to jump higher and shorten the contact time in a running one legged vertical jump in basketball.

Miura Ken, Yamamoto Masayoshi, Tamaki Hiroyuki, Zushi Koji

The Journal of Strength and Conditioning Research/24 (1)/pp.201-206, 2010

- 81) 走幅跳における「骨盤主導型」踏切動作を導くドリルの提案

—「膝関節主導型」踏切で競技記録が低迷している大学男子走幅跳選手の改善事例から—.

東畑 陽介；図子 浩二；金高 宏文

スポーツパフォーマンス研究/2/pp.194-206, 2010

2009年

- 82) ランニングパフォーマンスとStretch-Shortening Cycle 運動 —プライオメトリックスの可能性—.

図子 浩二

ランニング学研究/21 (1)/pp.11-17, 2009

- 83) 日本一流走幅跳選手における踏切準備動作.

伊藤 信之；阿江 通良；小山 宏之；村木 有也；図子 浩二；松尾 彰文；山田 真由美；平野 裕一

陸上競技学会誌/7/pp.8-17, 2009

- 84) 高齢女性における日常身体活動の酸素摂取量, および加速度計を用いた下肢筋の活動水準推定.

島田 美恵子；吉武 裕；図子 浩二；西牟田 守；齊藤 和人

日本生理人類学会誌/14 (1)/pp.7-13, 2009

- 85) 野球のバッティングパフォーマンスを高めるためのスイング動作の習得法.

中島 一；図子 浩二

スポーツパフォーマンス研究/1/pp.202-210, 2009

- 86) 腰の動きに注目した走幅跳の踏切技術の改善法.

小森 大輔；図子 浩二

スポーツパフォーマンス研究/1/pp.1-7, 2009

2008年

- 87) ジャンプトレーニングが思春期後期にある男子生徒の疾走能力に与える影響.
岩竹 淳; 北田 耕治; 川原 繁樹; 関子 浩二
体育学研究/53 (2)/pp.353-362, 2008
- 88) 思春期後期の生徒における加速および全力疾走能力と各種ジャンプ力および脚筋力との関係.
岩竹 淳; 山本 正嘉; 西園 秀嗣; 川原 繁樹; 北田 耕治; 関子 浩二
体育学研究/53 (1)/pp.1-10, 2008
- 89) スポーツトレーニング実践研究の推進・トレーニング効果の転移問題 (Transfer of Training Effects) の究明と手段の構築.
関子 浩二
トレーニング科学/20 (1)/pp.7-8, 2008
- 90) 地域在宅高齢者における「閉じこもり」と身体活動状況および体力.
恒吉 玲代; 永山 寛; 涌井 佐和子; 浜岡 隆文; 斉藤 和人; 前田 明; 関子 浩二; 井上 尚武; 和田 智仁;
隅野 美砂輝; 萩田 太; 吉武 裕
体力科学/57 (4) /pp.433-442, 2008

2007年

- 91) スプリントパフォーマンスの向上に対するプライオメトリックスの可能性.
関子 浩二; 永原 隆; 石井 泰光
スプリント研究/17/pp.21-31, 2007
- 92) スプリントトレーニングをマネジメントする.
関子 浩二
トレーニング科学/19 (1)/pp.14-15, 2007

2006年

- 93) ランニングパフォーマンスの向上に対するプライオメトリックスの可能性.
関子 浩二
ランニング学研究/18 (2)/pp.15-24, 2006
- 94) はずみ運動を用いて評価した高齢者における伸張-短縮サイクル運動の遂行能力.
三井 孝; 関子 浩二
体育学研究/51 (6)/pp.773-782, 2006
- 95) 高齢者の歩行動作の特徴と指導.
三井 孝; 関子 浩二
体育の科学/56 (11)/pp.890-894, 2006
- 96) 身体の逆振り子運動からみた高齢者における歩幅の獲得要因. (日本体育学会奨励賞)
三井 孝; 関子 浩二
体育学研究/51 (4)/pp.447-457, 2006
- 97) バスケットボール選手におけるプライオメトリックスがジャンプとフットワーク能力およびパス能力に及ぼす効果.
関子 浩二
体力科学/55 (2)/pp.237-246, 2006
- 98) スポーツパフォーマンスを解き明かす～陸上競技跳躍～.
関子 浩二
体育の科学/56 (2)/pp.127-133, 2006
- 99) バネ理論を応用した高齢者の歩行能力を改善させるトレーニング法の開発.

三井 孝；図子 浩二

バイオメカニクス研究/10 (1)/pp.58-65, 2006

- 100) 跳躍動作とその指導・トレーニング ～プライオメトリックトレーニングに注目して～.

図子 浩二

トレーニング科学/18 (4)/pp.297-305, 2006

2005年

- 101) Changes on spring-like leg behavior according to different touch down velocities in drop long jumps.

Zushi Koji, Ishii Yasumitsu, Bruce Elliott

Proceedings of XXth International Congress on Biomechanics, 2005

- 102) スポーツアスリートにおけるばねに関する理論とその可能性.

図子 浩二

陸上競技研究/60 (1)/pp.2-17, 2005

- 103) 逆振り子モデルからみたクラウチングスタートの特性.

金高 宏文；図子 浩二；瓜田 吉久

第18回日本バイオメカニクス学会大会論集/p.32, 2005

- 104) 高齢者の歩行能力と下肢におけるSSC能力, 筋力およびバランス能力との関係.

三井 孝；図子 浩二

第18回日本バイオメカニクス学会大会論集/pp.23-24, 2005

- 105) 体幹部のねじり動作が慣性の異なる棒の回転運動に及ぼす影響.

石井 泰光；図子 浩二

第18回日本バイオメカニクス学会大会論集/p.45, 2005

2004年

- 106) バスケットボールにおける長距離シューターの動作分析 ～上肢の動作について～.

三浦 健；図子 浩二；鈴木 章介；清水 信行

鹿屋体育大学学術研究紀要/32/pp.11-18, 2004

- 107) 棒高跳の技術 Tom Tellezの理論.

図子 浩二

陸上競技学会誌/2/pp.1-4, 2004

2003年

- 108) The Changes of Movement Control during Acceleration in Human Sprinting.

Zushi Koji, Mitsui Takashi, Elliott Bruce

Proceedings of XIXth International Congress on Biomechanics, 2003

- 109) Characteristics of Inverted Pendulum Movement in Elderly Walking.

Mitsui Takashi, Zushi Koji

Proceedings of XIXth International Congress on Biomechanics, 2003

- 110) スポーツ練習による動きが変容する要因—体力要因と技術要因に関する相互関係 (特集 動作の練習効果).

図子 浩二

バイオメカニクス研究/7 (4)/pp.303-312, 2003

- 111) 逆振り子運動からみたスプリントにおける加速走の特性.

三井 孝；図子 浩二；瓜田 吉久

第17回日本バイオメカニクス学会大会論集/p.31, 2003

- 112) 30 km 走中におけるランニング動作および着地パターンの経時的変化.

松田 三笠; 関子 浩二; 高松 薫; 三井 孝

第17回日本バイオメカニクス学会大会論集/p.64, 2003

113) 地面反力からみたりバウンド型スクワットの負荷特性.

永松 幸一; 関子 浩二; 瓜田 吉久

第17回日本バイオメカニクス学会大会論集/p.55, 2003

2002年

114) 体力測定 —競技スポーツの場合—.

関子 浩二

臨床スポーツ医学/19 (12)/pp.1461-1472, 2002

115) 一流女子円盤投選手における試合シーズン前後の地面反力の分析.

瓜田 吉久; 金高 宏文; 関子 浩二; 松田 三笠

陸上競技研究/51 (4)/pp.25-32, 2002

116) ある大学女子やり投げ選手の肩関節手術後の競技復帰過程における投擲フォーム及び地面反力のモニタリング.

瓜田 吉久; 関子 浩二; 松田 三笠; 金高 宏文

陸上競技研究/49 (2)/pp.27-34, 2002

117) バスケットボールにおけるチェストパス能力を高める上肢のプライオメトリックス手段に関する研究.

三浦 健; 関子 浩二; 鈴木 章介; 松田 三笠; 清水 信行

体育学研究/47 (2)/pp.141-154, 2002

2001年

118) 永田宏一朗選手の実施した4年間のトレーニング事例.

松田 三笠; 関子 浩二; 平田 文夫; 金高 宏文; 瓜田 吉久

陸上競技研究/46 (3)/pp.25-35, 2001

119) Specificity of Torque Production to Muscle Contraction at Hip, Knee and Ankle Joints.

Zushi Koji

Proceedings of XIXth International Symposium on Biomechanics in Sport, 2001

2000年

120) トレーニングマネジメント・スキルアップ革命

スポーツトレーニングの計画がわかる⑦.

—スポーツコーチング論—

関子 浩二

コーチング・クリニック/14 (7)/pp.30-33, 2000

121) トレーニングマネジメント・スキルアップ革命

スポーツトレーニングの計画がわかる⑥.

—スポーツトレーニングにおける測定評価—

関子 浩二

コーチング・クリニック/14 (6)/pp.27-33, 2000

122) トレーニングマネジメント・スキルアップ革命

スポーツトレーニングの計画がわかる⑤.

—スポーツトレーニングにおける計画論—

関子 浩二

コーチング・クリニック/14 (5)/pp.26-31, 2000

123) トレーニングマネジメント・スキルアップ革命

スポーツトレーニングの計画がわかる④.

—スポーツトレーニングにおける問題解決手段と選択の創造—

図子 浩二

コーチング・クリニック/14 (4)/pp.28-33, 2000

124) トレーニングマネジメント・スキルアップ革命

スポーツトレーニングの計画がわかる③.

—スポーツ運動構造論—

図子 浩二

コーチング・クリニック/14 (3)/pp.27-31, 2000

125) トレーニングマネジメント・スキルアップ革命

スポーツトレーニングの計画がわかる②.

—スポーツトレーニングの目標論—

図子 浩二

コーチング・クリニック/14 (2)/pp.30-33, 2000

126) トレーニングマネジメント・スキルアップ革命

スポーツトレーニングの計画がわかる①.

図子 浩二

コーチング・クリニック/14 (1)/pp.28-31, 2000

127) SSC理論を応用したトレーニングの可能性 (特集 実践的トレーニング科学に向けての提言).

図子 浩二

トレーニング科学/12 (2)/pp.69-84, 2000

128) 神経系トレーニングの統一的な捉え方は困難.

図子 浩二

月刊トレーニング・ジャーナル/7/pp.14-15, 2000

1999年

129) 踏切中の地面反力と身体の逆振り子運動からみたバウンディングの特性.

永松 幸一; 図子 浩二

第14回日本バイオメカニクス学会大会論集/p.72, 1999

130) 下肢の神経・筋・腱連合系の機能が長距離走者の競技成績に及ぼす影響.

図子 浩二; 平田 文夫

第14回日本バイオメカニクス学会大会論文集/pp.172-176, 1999

1998年

131) 筋収縮の違いからみた下肢三関節のトルク発揮特性.

図子 浩二; 西園 秀嗣; 平田 文夫

体力科学/47 (5)/pp.593-600, 1998

1997年

132) バレーボール選手と非鍛錬者におけるアキレス腱の形態的特性とジャンプパフォーマンスの関係.

勝田 茂; 秋間 宏; 神原 奈津紀; 高橋 秀幸; 図子 浩二

筑波大学体育科学系紀要/20/pp.159-166, 1997

133) ばねを高めるためのトレーニング理論.

図子 浩二

トレーニング科学/8 (1)/pp.7-16, 1997

1996年

- 134)ばねのある選手を探し育てるために 一問題解決型思考法を手掛かりにして一“ばね”の構造とそのトレーニング理論.
関子 浩二
コーチング・クリニック/10(9)/pp.18-25, 1996
- 135)ばねのある選手を探し育てるために 一問題解決型思考法を手掛かりにして一“ばね”を測定する.
関子 浩二
コーチング・クリニック/10(8)/pp.20-25, 1996
- 136)リバウンドドロップジャンプにおける着地動作の違いが踏切中のパワーに及ぼす影響 一膝関節に着目して一.
関子 浩二;高松 薫
体力科学/45(1)/pp.209-218, 1996

1995年

- 137)バリスティックな伸張一短縮サイクル運動の遂行能力を決定する要因 一筋力および瞬発力に着目して一.
関子 浩二;高松 薫
体力科学/44(1)/pp.147-154, 1995
- 138)リバウンドドロップジャンプにおける踏切時間を短縮する要因:下肢の各関節の仕事と着地に対する予測に着目して.
関子 浩二;高松 薫
体育学研究/40(1)/pp.29-39, 1995
- 139)リバウンドジャンプ能力の向上に伴う踏切時間と跳躍高の変化パターン.
関子 浩二;高松 薫
第12回日本バイオメカニクス学会大会論文集/pp.306-310, 1995

1993年

- 140)Parameter Determining Rebound Movement Ability.
Zushi Koji, Takamatsu Kaoru, Kotoh Takayoshi
Proceedings of XIVth International Congress on Biomechanics, 1993
- 141)各種スポーツ選手における下肢の筋力およびパワー発揮に関する特性.
関子 浩二;高松 薫;古藤 高良
体育学研究/38(4)/pp.265-278, 1993

1992年

- 142)スポーツ選手における専門的体力に関する研究 一ドロップジャンプ研究を手がかりにして一.
関子 浩二
スポーツ運動学研究/5/pp.101-106, 1992
- 143)Drop jumpにおけるパワー発揮能力を決定する要因.
関子 浩二;高松 薫;古藤 高良
第11回日本バイオメカニクス学会大会論文集/p.38, 1992
- 144)台高と付加重量の相違がドロップジャンプのパワー発揮に及ぼす影響.
関子 浩二;高松 薫;古藤 高良
いばらぎ体育・スポーツ科学/8/pp.11-18, 1992

1991年

- 145) Isometric および eccentric な予備緊張が肘屈曲速度に及ぼす影響：Concentric な収縮中の負荷重量および動作範囲に着目して。
高松 薫；會田 宏；図子 浩二
体育学研究/36 (2)/pp.127-139, 1991
- 146) Influence of Dropping Height and Magnitude of Dropping Mass by Extra Weight on Eccentric Power Output of Drop Jumping.
Zushi Koji, Takamatsu Kaoru, Kotoh Takayoshi
Proceeding of XIIIth International Congress on Biomechanics, 1991

1990年

- 147) 運動能力テストによるスポーツタレントの発掘方法に関する研究 —その2— 球技スポーツにおける完成段階の体力・運動能力テスト項目について。
高松 薫；杉森 弘幸；江崎 由幸；図子 浩二；坂井 和明；亀井 良和
日本体育協会スポーツ医・科学研究報告 NO.V スポーツタレントの発掘方法に関する研究 —第1報—, 1990
- 148) 体力・運動能力テストによるスポーツタレントの発掘方法に関する研究 —その1— 体力・運動能力テストの基本的な考え方。
高松 薫；図子 浩二；宮坂 雅昭；杉森 由幸；麻場 一徳
日本体育協会スポーツ医・科学研究報告 NO.V スポーツタレントの発掘方法に関する研究 —第1報—, 1990
- 149) 疾走能力および跳躍能力とスイング型運動およびピストン型運動による膝伸展力との関係。
高松 薫；図子 浩二；村木 征人
筑波大学体育科学系紀要/13/pp.207-214, 1990

1989年

- 150) デプスジャンプにおける台高と踏切中の膝曲げ動作の相違が跳躍高および下肢筋にかかる負荷特性に及ぼす影響。
高松 薫；図子 浩二；會田 宏；吉田 亮；石島 繁
日本体育協会スポーツ医・科学研究報告 NO.IX, 1989

1988年

- 151) プライオメトリックトレーニングに関する研究のレビュー。
勝田 茂；高松 薫；酒井 俊朗；會田 宏；図子 浩二
日本体育協会スポーツ医・科学研究報告 NO.VII, 1988
- 152) 各種台高からのデプスジャンプにおける跳躍高と踏切各局面の力学量。
高松 薫；宮坂 雅昭；図子 浩二；石島 繁
日本体育協会スポーツ医・科学研究報告 NO.IX, 1988

関子浩二先生 研究業績

—学会・会議発表—

※筆頭での発表のみを記載しています。

2013年

- 1) コーチング学における研究方法論～ハンドボールに関する実践研究の進め方～。
関子 浩二
日本ハンドボール学会研究セミナー, 2013
- 2) 体育・スポーツ界における実践研究の重要性とその方向性。
関子 浩二
スポーツ実践研究推進シンポジウム, 2013

2012年

- 3) 筑波大学研究開発プロジェクト：新しいコンセプトにもとづいたトレーニング機器の開発事例～体幹部捻転型トレーニングプロジェクトの活動～。
関子 浩二
第9回JISSスポーツ科学会議, 2012

2011年

- 4) トレーニングにおける測定評価および診断法—「競技現場に活かす測定評価」から「競技現場の中での測定評価へ」(競技現場に活かす測定評価, シンポジウム1, 測定評価, 専門分科会企画)。
関子 浩二
第62回日本体育学会, 2011
- 5) プライオメトリックトレーニングの理論と実践。
関子 浩二
日本ストレングス&コンディショニング協会カンファレンス, 2011

2010年

- 6) テニスを科学するとは?。
関子 浩二
日本テニス学会第22回大会, 2010
- 7) コーチング学における研究方法の課題 ～“これがコーチング学である”を確立するために～。
関子 浩二
日本スポーツ方法学会第21回大会, 2010
- 8) プライオメトリックスの理論と実践。
関子 浩二
日本トレーニング指導者協会 第4回総会・研修会, 2010

2009年

- 9) ランニング動作とStretch-Shortening-Cycle運動 —プライオメトリックスの可能性—。
関子 浩二
第21回ランニング学会大会, 2009
- 10) スポーツ選手や指導者に役立つ実践の学としてのコーチング学の一つの方向性 (「コーチング学」の再考に向けて, シンポジウム, 体育方法, 専門分科会企画, ひろしま発ひとを育む体育・スポーツ)。

関子 浩二

第60回日本体育学会, 2009

- 11) 思春期の中学生におけるプライオメトリックスを用いた体育授業プログラムの効果.

関子 浩二

第64回日本体力医学会, 2009

- 12) プライオメトリックトレーニングの理論と方法.

関子 浩二

日本ストレングス&コンディショニング協会, 2009

2008年

- 13) スポーツパフォーマンスとトレーニング：トレーニング研究の問題点と今後の課題.

関子 浩二

第20回日本バイオメカニクス学会大会, 2008

- 14) 思春期の中学生における形態とリバウンドジャンプ能力に関する縦断的変化の関係.

関子 浩二; 石井 泰光

第63回日本体力医学会, 2008

2006年

- 15) 骨盤と股関節の3D動作に関する筋力を高めるスクワットエクササイズ法.

関子 浩二

第19回日本バイオメカニクス学会, 2006

- 16) スプリントといわゆる“ばね”能力について — “ばね”に関する理論とスプリントトレーニングへの応用—.

関子 浩二

第17回日本スプリント学会, 2006

- 17) スプリントトレーニングをマネジメントする.

関子 浩二

日本トレーニング科学会第55回トレーニング・カンファレンス, 2006

2005年

- 18) Changes on spring-like leg behavior according to different touch down velocities in drop long jumps.

Zushi Koji, Ishii Yasumitsu, Bruce Elliott

International Society of Biomechanics XXth Congress, 2005

- 19) 記録の低迷している長距離選手に対するプライオメトリックスの導入事例 (4. 体育・スポーツにおける事例研究の展開, オーガナイズドセッション, 日本体育学会本部企画).

関子 浩二

第54回日本体育学会, 2005

2004年

- 20) エキセントリックな最大筋力を測定するための方法と機器の開発.

関子 浩二

第59回日本体力医学会, 2004

2003年

- 21) Changes in movement control during acceleration in human sprinting.

Zushi Koji, Mitsui Takashi, Bruce Elliott

International Society of Biomechanics XIXth Congress, 2003

2001年

- 22) Specificity of torque production to muscle contraction at hip, knee and ankle joints.

Zushi Koji

XIXth International Symposium on Biomechanics in Sports, 2001

2000年

- 23) 21世紀のトレーニング科学を展望するー実践的なトレーニング研究に向けての提言ー「筋力・パワートレーニング：staticな負荷からballisticな負荷へ」.

関子 浩二

第12回日本トレーニング科学会, 2000

1999年

- 24) 一流跳躍選手における下肢の機能および形態からみた左右差.

関子 浩二; 金高 宏文; 西蘭 秀嗣

日本運動生理学会第7回大会, 1999

- 25) 一流跳躍選手における踏切脚の機能および形態の特性.

関子 浩二; 金高 宏文; 西蘭 秀嗣; 平田 文夫; 瓜田 吉久; 永松 幸一; 松田 三笠

第54回日本体力医学会, 1999

1998年

- 26) 筋収縮の違いからみた下肢三関節のトルク発揮特性.

関子 浩二; 平田 文夫; 西蘭 秀嗣; 瓜田 吉久

第53回日本体力医学会, 1998

- 27) 下腿の神経・筋・腱系の状態が長距離走者の競技成績に及ぼす影響.

関子 浩二; 平田 文夫

第14回日本バイオメカニクス学会, 1998

1997年

- 28) 下腿の神経・筋・腱系の機能からみた長距離競技者のコンディショニング.

関子 浩二; 平田 文夫

第52回日本体力医学会, 1997

- 29) ジャンパーにおける筋力・スピード・ジャンプ力の相互関連性

ー冬期プレシーズン中におけるトレーニング事例を手がかりにしてー.

関子 浩二; 永松 幸一; 瓜田 吉久; 平田 文夫

第9回日本トレーニング科学会, 1997

1996年

- 30) “ばね”能力からみた日本人選手の可能性.

関子 浩二; 高松 薫

第51回日本体力医学会, 1996

- 31) ばね能力を高めるためのトレーニング理論 ーばねからみた日本人選手の可能性ー.

関子 浩二

第8回日本トレーニング科学会, 1996

1994年

- 32) リバウンドジャンプ能力の向上に伴う踏切時間と跳躍高の変化パターン.
 関子 浩二；高松 薫
 第12回日本バイオメカニクス学会, 1994

1993年

- 33) リバウンド運動能力を決定する合理的な先取り技術.
 関子 浩二；高松 薫；古藤 高良
 第44回日本体育学会, 1993
- 34) Parameters determining rebound movement ability.
 Zushi Koji, Takamatsu Kaoru, Kotoh Takayoshi
 International Society of Biomechanics XIVth Congress, 1993

1992年

- 35) Drop Jumpにおけるパワー発揮能力を決定する要因.
 関子 浩二；高松 薫；古藤 高良
 第11回日本バイオメカニクス学会, 1992
- 36) スポーツ選手の専門的体力に関する研究 —ドロップジャンプ研究を手がかりにして—.
 関子 浩二
 平成3年度スポーツ運動学会, 1992

1991年

- 37) Influence of dropping height and magnitude of dropping mass by extra weights on eccentric power output of drop jumping.
 Zushi Koji, Takamatsu Kaoru, Kotoh Takayoshi
 International Society of Biomechanics XIII Congress, 1991
- 38) スポーツ競技選手のBallisticなStretch-Shortening cycle exercise能力に関する研究.
 関子 浩二；高松 薫；古藤 高良
 第42回日本体育学会, 1991

1989年

- 39) 台高とからだにかける負荷重量の相違がデプスジャンプのeccentricな筋出力特性に及ぼす影響.
 関子 浩二；高松 薫；古藤 高良
 第41回日本体育学会, 1990
- 40) デプスジャンプの負荷特性に関する研究.
 関子 浩二；高松 薫；石島 繁；會田 宏
 第40回日本体育学会, 1989

1987年

- 41) 疾走能力, 跳能力とスイング運動およびピストン運動による膝伸展力との関係.
 関子 浩二；高松 薫；村木 征人
 第39回日本体育学会, 1987

関子浩二先生 研究業績

—各種受賞—

2016年

- 1) 第29回日本トレーニング科学会大会 奨励賞
骨盤の挙上運動を引き出すための片脚スクワットを用いたトレーニング方法論：姿勢と台高の相違に着目して
菟山 靖；林 陵平；関子 あまね；関子 浩二
- 2) 第27回日本コーチング学会 優秀発表賞
三段跳において減速を少なくするための踏切動作：リバウンドロングジャンプテストを用いた評価
米澤 宏明；菟山 靖；林 陵平；関子 浩二
- 3) 第27回日本コーチング学会 優秀発表賞
男子棒高跳選手におけるトレーニング経過とパフォーマンスの向上に関するコーチング学的研究
—初心者から熟練者における技術の習得に着目して—
米原 博章；北崎 悦子；菟山 靖；関子 浩二

2015年

- 4) 日本体育学会第66回大会 若手研究奨励賞
リバウンドジャンプにおけるパフォーマンス変数および下肢関節キネティクスの縦断的变化とそのアセスメント
関子 あまね；菟山 靖；関子 浩二
- 5) 第26回日本コーチング学会 学会大会賞
3Dキネティクスを用いた男子走高跳トップジャンパーの技術評価
戸邊 直人；菟山 靖；関子 浩二

2014年

- 6) 日本陸上競技学会 学会賞
リバウンドロングジャンプテストの遂行能力からみた水平片脚跳躍において高い接地速度に対応するための踏切動作
藤林 献明；菟山 靖；木野村 嘉則；関子 浩二
陸上競技学会誌/12 (1)/pp.33-44
- 7) 第27回日本トレーニング科学会大会 実行委員会特別賞
スプリント走に対するリバウンドジャンプを用いたプライオメトリクスの有効性：支持脚力発揮特性に着目して
菟山 靖；関子 浩二
- 8) 日本体育学会第65回大会 若手研究優秀賞
Stiffness特性から見たバウンディングとリバウンドジャンプの階層構造関係に関するトレーニング学的研究
菟山 靖；関子 浩二
- 9) 日本体育学会第65回大会 若手研究大会委員長賞
ドロップジャンプにおける大脳皮質運動野皮質内興奮性とパフォーマンスの関係
吉田 拓矢；丸山 敦夫；菟山 靖；林 陵平；関子 浩二
- 10) 第25回日本コーチング学会 学会大会賞
男子走高跳トップ選手におけるパフォーマンス向上とそのトレーニングに関するコーチング学的研究～オリンピック標準記録である2m28まで記録を向上させた男子選手の事例を手がかりにして～
戸邊 直人；菟山 靖；関子 浩二

2012年

- 11) 平成24年度 関東学生陸上競技連盟指導者功労賞
図子 浩二
- 12) 第23回日本コーチング学会 学会賞
ライセンスレベルの異なるハンドボールレフェリーによる試合中の行動規範に関する特徴
田渕 舞；苅山 靖；図子 浩二
- 13) 第23回日本コーチング学会 スチューデントアワード
跳躍パフォーマンス・バウンディング・リバウンドジャンプの階層構造関係に関するトレーニング学的研究
苅山 靖；図子 浩二

2011年

- 14) 第46回人類働態学会 優秀賞
ハンドボールレフェリーにおける試合中の行動規範に関する研究
田渕 舞；木野村 嘉則；藤林 献明；會田 宏；図子 浩二
- 15) 平成23年度 日本オリンピック委員会 奨励賞
図子 浩二
- 16) 平成22年度 北陸体育学会 学会賞
逆振り子運動からみたバウンディング能力の評価法
岩竹 淳；北田 耕司；川原 繁樹；図子 浩二

2009年

- 17) 第22回日本トレーニング科学会 学会賞
流速の異なるクロール動作中における腹腔内圧の変化様相
小川 まどか；図子 浩二；島 典広

2007年

- 18) 日本体育学会 奨励賞
身体の逆振り子運動からみた高齢者における歩幅の獲得要因
三井 孝；図子 浩二
体育学研究/51 (4)/pp.447-457, 2006
- 19) 第19回日本トレーニング科学会 学会賞
思春期後期の男子生徒における疾走能力の向上をねらいとした体育授業におけるプライオメトリックトレーニングの導入
岩竹 淳；山本 正嘉；西薊 秀嗣；川原 繁樹；北田 耕治；図子 浩二

2004年

- 20) 第18回日本バイオメカニクス学会 奨励賞
体幹部のねじり動作が慣性の異なる棒の回転運動に及ぼす影響
石井 泰光；図子 浩二

2002年

- 21) 第14回日本トレーニング科学会 学会賞
大学男子長距離選手が一流選手に成長するまでのトレーニング経過
—永田宏一朗選手の4年間のトレーニング事例—
松田 三笠；図子 浩二；平田 文夫；瓜田 吉久；金高 宏文

1997年

22) 第9回日本トレーニング科学会 学会賞

ジャンパーにおける筋力・スピード・ジャンプ力の相互関連性

—冬期プレシーズン中におけるトレーニング事例を手がかりにして—

図子 浩二；永松 幸一；瓜田 吉久；平田 文夫